

|  |  |                        |                           |                             |
|--|--|------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 科目名<br>Subject Name<br>発達心理学Ⅱ<br>Developmental Psychology II   |  | 開講年次<br>2年             | 開講学期<br>後期                | 曜日・時限<br>金曜日・2時限、3時限（クラス指定） |
| 単位数<br>1単位   | 授業の形態<br>演習  | 授業の性格<br>選択（保育士養成課程必修） |                           |                             |
| 当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目   |  |                        |                           |                             |
| 発達心理学Ⅰ・幼児心理学・教育心理学   |  |                        |                           |                             |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目   |  |                        |                           |                             |
| 保育士養成課程上の科目  |  |                        |                           |                             |
| 担当者に関する情報  |  |                        |                           |                             |
| 氏名<br>秋山真奈美  | 研究室の場所<br>講義棟3階  | オフィスアワー<br>火・土・授業時間を除く | 電話番号・メールアドレス<br>授業中に指示します |                             |
| 授業の概要<br>「発達心理学Ⅰ」「幼児心理学」で学んだ乳幼児の発達についての知識を基に、より具体的で応用的な、発達を引き出すための関わり方について学ぶ。本教科は演習であり、経験から得た知識を学友に紹介する機会を提供するので、これらの知見を共有し、演繹的に活用できるようになることを期待したい。  |  |                        |                           |                             |
| 授業の到達目標<br>①発達に関する知識を現実場面で活用できるよう、身近な事象と結び付けることができるようにする。<br>②各人が保育現場の現状を意識しながら、自分なりの考えを構築できるようにする。<br>③保育現場で期待される調査・発表の基礎技能を身につけることができるようにする。   |  |                        |                           |                             |
| 授業の方法<br>第1回目の授業で詳しく説明するが、第2～4回の授業では、児童期以降の発達を講義する。第5回の授業で1本目のレポート（保育経験に関わる内容）を回収し、以降の授業の冒頭で、授業テーマに関わるレポートを毎回紹介していく。第13～14回の授業内で、2本目の調査課題としてレポート発表を募り、口頭ではなく論述でのレポートを望む者には第15回目での提出を求める。<br>講義した内容について、授業内でディスカッション等を実施し、発表してもらうことがある。 |  |                        |                           |                             |
| 学習の成果<br>①実習等での経験を帰納することができる。<br>②経験から得た知識を学友と共有し、演繹的に活用することができる。<br>③保育現場で期待される調査・発表の基礎技能を身につけることができる。<br>④保育現場の現状を意識し、他者の意見を聞きながら、自分なりの考えを構築することができる。<br>⑤児童期以降の発達の様相を学ぶことができる。  |  |                        |                           |                             |
| 授業のスケジュールと内容   |  |                        |                           |                             |
| 第1回目   | オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 発達と子どもを取り巻く環境                              |                        |                           |                             |
| 第2回目   | 生涯に亘る発達の道筋；就学支援 児童期の発達 社会性の拡大                                    |                        |                           |                             |
| 第3回目   | 生涯に亘る発達の道筋；思春期の発達 童話に見る思春期心性 思春期の危機 青年期の発達 自立性の発達                |                        |                           |                             |
| 第4回目   | 生涯に亘る発達の道筋；成人期の発達 子育ては母親だけの仕事？ 世界の子育て 壮年期・老年期の発達 次世代の育成          |                        |                           |                             |
| 第5回目   | 個人差や発達過程に応じた保育：知能と評価 精神遅滞児・オーバアーチャーへの対応 適正相互作用 適切な評価（※第1回レポート提出） |                        |                           |                             |
| 第6回目   | 発達障害への対応：自閉症児・アスペルガー症候群児等への対応                                    |                        |                           |                             |

|  |  |   |       |
|--|--|---|-------|
| 第7回目   | 発達障害への対応：学習障害児・ADHD児への援助               |   |       |
| 第8回目   | 環境としての保育者の発達：保育の熟達化 発達援助における協働         |   |       |
| 第9回目   | 社会性の発達：子ども相互の関わりと関係づけ 子ども集団と保育の環境      |   |       |
| 第10回目  | 自我の発達：自己主張と自己統制への関わり                   |   |       |
| 第11回目  | 子どもの生活と学び：子どもの主体性を育む発達援助の実際            |   |       |
| 第12回目  | 発達の課題：発達課題への援助とは？ 現代社会における子どもの発達と保育の課題 |   |       |
| 第13回目  | 研究発表：期末考査扱い ※保育・発達に関する研究報告（グループ発表可）    |   |       |
| 第14回目  | 研究発表：期末考査扱い ※保育・発達に関する研究報告（グループ発表可）    |   |       |
| 第15回目  | 期末考査（レポート提出） まとめ：生涯学習について              |   |       |
| 成績評価の方法と基準   |  |   |       |
|  | 評価の領域                                  | 割合  | 評価の基準 |
| 授業参加態度   | 10%                                    | 私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は減点の対象とする。  |       |
| レポート   | 40%                                    | 中間考査として第5回授業で提出。その後の授業のテーマに応じて授業冒頭で読んでもらう場合がある。各回で朗読する機会が無かったものについては、第13～14回授業の時間の一部を利用して発表してもらう。 |       |
| 調査報告書  |  |   |       |
| 小テスト   |  |   |       |
| 中間・学期末試験   | 40%                                    | 口頭レポート（第13～14回発表）あるいは論文レポート（第15回提出）のいずれかの形式でプレゼンテーションしてもらう。いずれもオリジナリティと論理構成は重んじる。                 |       |
| 発表内容（態度含む）   | 10%                                    | グループディスカッションやレポート等の発表をしてもらう際、発表内容はもちろん、プレゼンテーションの巧緻も評価する。   |       |
| その他  |  |   |       |
| 教科書と参考図書   |  |   |       |
| 教科書：『保育の心理を学ぶ』長谷部比呂美ら（ななみ書房）。（※発達心理学Ⅰに同じ）。『新版 保育のための教育心理学』坂原明〔編〕（おうふう）（※教育心理学に同じ）。参考書は初回授業ははじめ各回授業で随時紹介する。 |  |   |       |
| 履修上の心得・ルール   |  |   |       |
| 発達についての知識無くして保育・教育現場での適切な関わりは期待できない。また本教科は演習科目であるので、より主体的に参加することを期待する。                                     |  |   |       |